

東北地方 1か月予報

(3月2日から4月1日までの天候見通し)

平成14年3月1日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

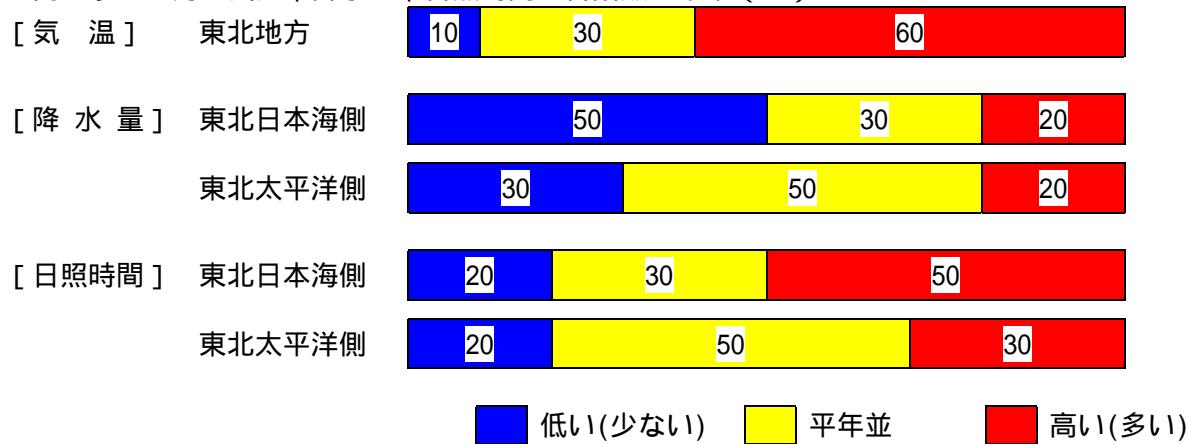
向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。

天気は概ね周期的に変化しますが、期間の初めは冬型の気圧配置となって東北日本海側を中心に雪が降るでしょう。東北日本海側では平年に比べ晴れの日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

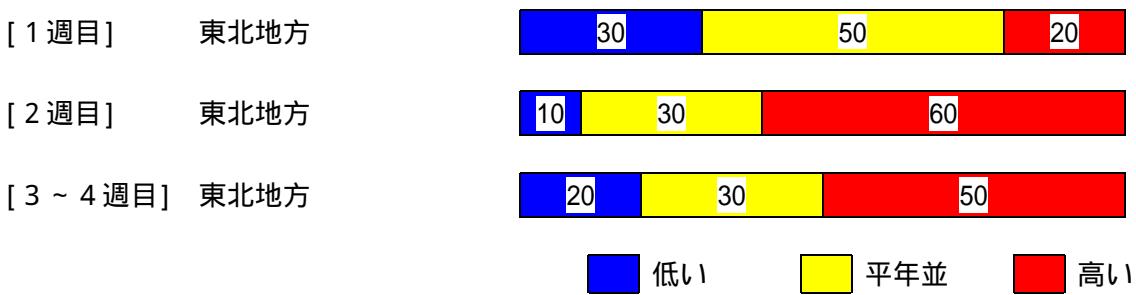
向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量は、東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並の見込みです。日照時間は、東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並でしょう。

週別の気温は、1週目変動が大きいですが平年並で、2週目と3~4週目は高い見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 3月 2日(土) ~ 4月 1日(月)

1週目 : 3月 2日(土) ~ 3月 8日(金)

2週目 : 3月 9日(土) ~ 3月 15日(金)

3~4週目 : 3月 16日(土) ~ 3月 29日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は3月8日

3か月予報:3月20日(水) 14時00分

暖候期予報:3月11日(月) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温,降水量,日照時間と1週目,2週目,3~4週目の平均気温)

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	3.6	94.9	170.4	2.1	2.9	4.3
新庄	2.1	110.6	119.0	0.6	1.4	2.8
若松	3.2	64.4	142.5	1.3	2.2	4.0
深浦	2.8	79.9	122.6	1.2	2.0	3.5
青森	2.2	69.2	144.7	0.5	1.3	2.9
むつ	1.6	76.8	155.9	-0.1	0.7	2.3
八戸	2.4	51.2	175.3	0.7	1.6	3.2
秋田	3.4	94.2	138.3	1.7	2.5	4.1
盛岡	2.0	80.3	168.2	0.2	1.1	2.8
宮古	3.2	89.4	184.1	1.6	2.4	3.8
酒田	4.4	102.3	129.1	2.8	3.6	5.1
山形	3.3	66.6	149.1	1.5	2.4	4.0
仙台	4.7	74.0	184.0	3.2	3.9	5.3
石巻	3.9	71.0	190.5	2.4	3.1	4.5
福島	5.0	76.3	180.1	3.4	4.2	5.8
白河	3.7	73.0	183.2	2.1	2.9	4.5
小名浜	6.3	107.6	188.7	5.0	5.7	6.9

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4~+0.4	84~112	94~107
東北日本海側	-0.4~+0.4	88~108	93~106
東北太平洋側	-0.4~+0.4	80~119	96~107

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.6	-0.6~+0.7	-0.3~+0.5
東北日本海側	-0.6~+0.6	-0.6~+0.6	-0.3~+0.5
東北太平洋側	-0.7~+0.6	-0.7~+0.6	-0.3~+0.6

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成14年3月1日 仙台管区気象台

1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(3月2日~4月1日) :

天気は概ね周期的に変化しますが、期間の初めは冬型の気圧配置となって東北日本海側を中心に雪が降るでしょう。東北日本海側では平年に比べ晴れの日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

1週目(3月2日~3月8日) :

明日(2日)と期間の中頃は気圧の谷の影響で天気がくずれるでしょう。気圧の谷の通過後は一時的に冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪が降り、東北太平洋側では概ね晴れる見込みです。その他の日は高気圧に覆われて晴れるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(3月9日~3月15日) :

天気は概ね周期的に変化しますが、天気の崩れは小さく、移動性高気圧に覆われて平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

3~4週目(3月16日~3月29日) :

天気は周期的に変化し、平年と同様に東北太平洋側を中心に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数

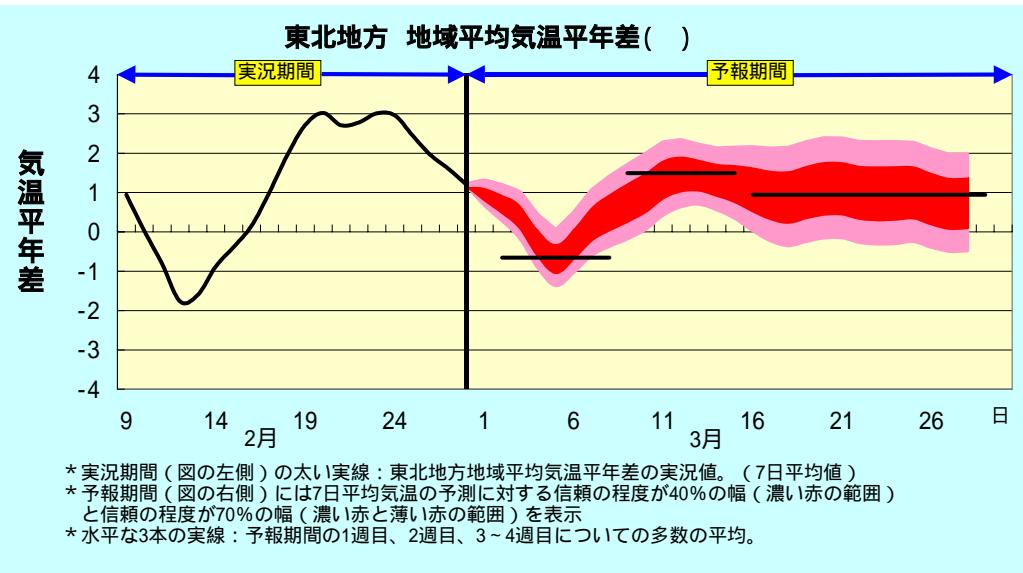
	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	12.2日	2.6日	2.8日	6.8日
東北太平洋側	18.2日	4.8日	4.4日	9.0日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と予測結果

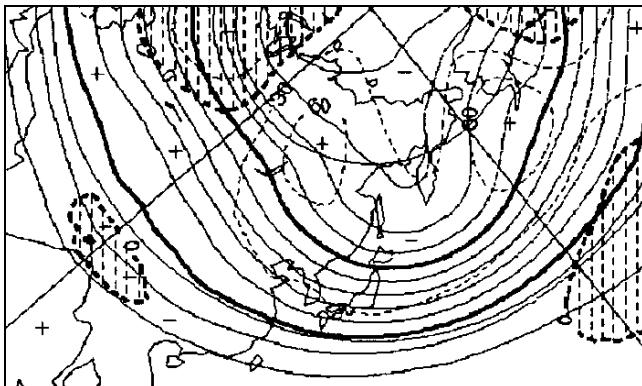
週別の気温は、1週目は「低い」、2週目と3~4週目は「高い」を予測している。

予報は、週間予報資料等から1週目を「平年並」に修正する他は予測どおりとする。

なお、数値予報の信頼度は大きい。



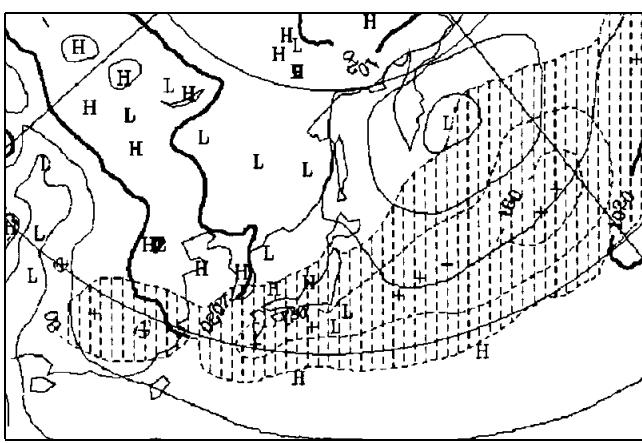
3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



500hPa高度・偏差

月平均で見ると、極東域はほとんど正偏差に覆われ、バイカルの北やアリューシャン列島付近の高緯度で正偏差が大きい。偏西風の流れは東西流が卓越し、天気は概ね周期的に変わり、強い寒気は南下しない。

週別（図略）では、1週目に北海道から北が負偏差となり、寒気の影響を受けやすいが、2週目以降は月平均と同様で日本付近は広く正偏差に覆われる。



地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸に高気圧があり、カムチャッカ半島の東には低気圧があって、日本付近は西高東低の冬型の気圧配置だが、等圧線の間隔はかなり広く、冬型は弱くて天気は概ね周期的に変わる。

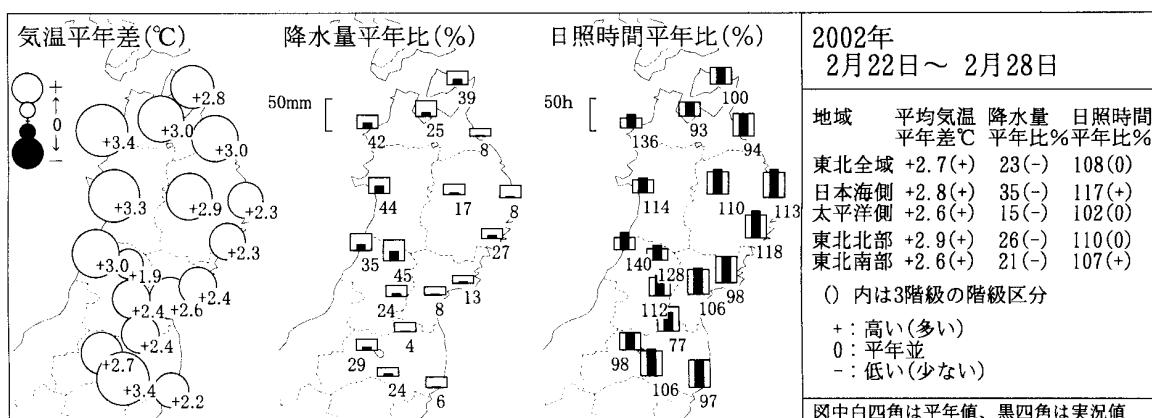
まとまった降水域は日本の南岸から東海上に延びる。

週別（図略）では、1週目に冬型の気圧配置となるが、2週目は東シナ海を中心を持つ高気圧に覆われやすい。3~4週目は気圧配置がはっきりせず、天気は周期的に変わる。

4. 最近1週間（2月22日～2月28日）の天候の経過

この期間、22日に気圧の谷が通過し、23日は冬型の気圧配置となったが長続きしなかった。また、28日にも気圧の谷が通過し、雨や雪となる所があった。その他の日は、高気圧に覆われ概ね晴れた。

平均気温は、東北地方で平年差+2.7と高かった。降水量は、東北地方で平年比23%と少なかった。日照時間は、東北日本海側で平年比117%と多く、東北太平洋側で平年比102%と平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）